

2020年度 前期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Toboku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本会計大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。この目的を達成していくために第一義的に重要なことは、学生に対する教育である。我々は社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。我々は、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、各 Semester 終了後に授業アンケートを実施し、その分析を行ってきた。

アンケートの結果は、過年度分のアンケートを含めて「アンケート実施報告書」として会計大学院のWEB サイト¹で公開している。私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本会計大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見出し、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見をいただければ幸いである。特に今学期は COVID-19 の流行に伴い、多くの学生・教員がオンライン講義への突然の対応を迫られた。オンライン講義の経験は一般的に浅いため、授業の改善点も多いと思われる。本アンケートを踏まえ、今後の会計大学院の授業がさらに良いものに改善されていくことを願っている。

本会計大学院は2018年度に会計大学院評価機構による認証評価を受け、すべての基準に適合しているという評価を受けた。これは、学生、事務スタッフ、教員の努力、そしてその他ご協力いただいた皆様のご助力の下でなしえたものである。改めて関係のみなさまに深く感謝申し上げたい。

2020年8月
東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートの種類と配布期間・対象者は以下に示す通りである。

「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 1）

2020年7月13日（月）～8月5日（水）にメールリストや担当教員からのアナウンスを通じて Google Form の URL を配布。

このアンケートは無記名である。「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上である全ての講義を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、例年、このアンケートは講義中に質問用紙と解答用紙を紙面で配布して実施していた。だが、今年は COVID-19 流行に伴い、前期講義は全面的にオンラインで実施する運びとなったため、例年と同様の方法を取ることは困難であった。そこで、今年度前期の当該アンケートは Google Form を用いてオンライン上で実施することとした。質問内容は例年と同様である。

本報告書では、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告している。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

3.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上の授業について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。今回のアンケートでは、述べ履修者数485名に対して300名から回答を得た。アンケートの回答率は61.86%である。オンライン講義の性格上直接学生に配布できないことから例年と比較すると回答率はやや低下しているが、比較的高い水準を維持しており、結果の信頼性は高いと言える。

授業科目名	履修者数	回収数
財務会計1	38	27
財務諸表分析	38	25
財務会計3	17	13
簿記1	38	25
簿記3	12	11
公会計2	24	12
管理会計2	27	10
原価計算1	49	35
原価計算3	16	10
監査1	35	23
監査3	5	5
監査計画の編成法2	10	7
事例研究(監査制度)	10	4
ミクロ経済学	16	9
マーケティング	10	7
金融行政1	7	3
企業法1	33	20
法人税法1	23	11
所得税法	9	7
企業開示制度と実務	8	6
会計職業倫理	40	18
ビジネス・コミュニケーション1	13	9
ビジネス・コミュニケーション2	7	3
合計	485	300

表1：アンケート実施科目と回収数

3.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は好ましい回答ほどの値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
6	99															
5	113	284	12	13	18	118	199	201	191	199	179	186	189	172	194	66
4	25	13	3	9	11	143	72	60	62	69	80	65	72	62	71	
3	38	0	22	27	27	25	20	29	33	20	28	35	22	40	27	155
2	9	1	51	47	53	11	5	6	6	9	10	7	12	13	5	
1	13	2	89	113	115	3	4	4	8	3	3	7	5	13	3	79
0	3		123	91	76											
合計	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
平均値	2.70	4.92	1.10	1.30	1.45	4.21	4.52	4.49	4.41	4.51	4.41	4.39	4.43	4.22	4.49	2.91
中央値	5	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
最頻値	5	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
標準偏差	1.43	0.42	1.26	1.30	1.37	0.82	0.80	0.85	0.95	0.83	0.86	0.94	0.91	1.10	0.81	1.39

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）、設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も最高評価の5がほとんどである。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、今年度は突然のオンライン講義となったにもかかわらず、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好といえる。ただし、授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている。設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保していない。これは過年度の傾向と同様であり、継続的にこれに対処する方法を模索する必要がある。全体として、学生の各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習・復習・宿題にかかる時間を一定数確保するように授業を設計する必要があるといえる。

3.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格については、より高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。各設問を特徴別に分類すると、学生の学習時間（設問3～設問5）、授業評価（設問6～13）、将来の進路に関する有用性（設問14～15）となる。

質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	0.013	1														
3 予習	-0.109	0.065	1													
4 復習	-0.145	0.081	0.745	1												
5 宿題	-0.009	-0.176	0.414	0.370	1											
6 理解	0.208	0.195	-0.122	-0.083	-0.098	1										
7 難易度	0.088	0.185	0.003	0.078	-0.155	0.450	1									
8 教員準備	0.207	0.290	0.058	0.103	-0.103	0.476	0.604	1								
9 プレゼン	0.205	0.234	-0.002	0.062	-0.114	0.449	0.513	0.780	1							
10 教材	0.155	0.002	0.052	0.111	-0.050	0.417	0.606	0.692	0.591	1						
11 評価方法	0.146	0.303	0.074	0.082	-0.133	0.474	0.664	0.688	0.619	0.658	1					
12 シラバス	0.174	0.265	0.053	0.107	-0.081	0.522	0.623	0.647	0.584	0.651	0.783	1				
13 教員評価	0.210	0.283	-0.027	0.051	-0.126	0.534	0.638	0.820	0.766	0.691	0.740	0.769	1			
14 対試験	0.018	-0.034	0.157	0.186	-0.021	0.218	0.508	0.305	0.228	0.475	0.446	0.403	0.379	1		
15 キャリア	0.184	0.038	0.068	0.108	-0.061	0.451	0.591	0.452	0.448	0.590	0.563	0.560	0.593	0.587	1	
16 資格	0.040	-0.070	-0.147	-0.185	-0.011	0.069	-0.007	-0.060	0.047	0.009	0.085	0.087	0.040	0.121	0.032	1

表3：質問項目間の相関関係

まず、学生の学習時間に関する予習（設問3）、復習（設問4）、宿題（設問5）に注目する。過年度と同様に、予習（設問3）と復習（設問4）の間では比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのものであり、予習をよく行う学生は復習もよく行うことを示している。一方、近年では、予習（設問3）や復習（設問4）と宿題（設問5）との相関がやや低下傾向にある。今年度の講義がオンラインであったことが関係しているかもしれないが、宿題を課す講義から、学生側の自発的な予復習を促す講義へと講義の性質が移行している可能性がある。

次に、授業評価に関する授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、プレゼン（設問9）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、教員評価（設問13）に着目する。これらは、それぞれ互いに高い正の相関関係を有する。適切な難易度設計や評価方法、シラバスに始まる十分な準備やプレゼンや教材の設定、高い教員評価は、それぞれ密接に関係していると判断できる。

さて、対試験（設問14）とキャリア（設問15）という、将来の進路に関する有用性という特徴に着目する。全体として、対試験（設問14）よりもキャリア（設問15）の方が、授業評価に関する回答（設問7～13）との関係が強い。本学では倫理教育や英語教育など、会計士試験と直結しなくとも長期的に学生の将来に有用な講義を開講している。会計士試験と関連しているかどうかよりも、将来の進路に役立つ授業ほど、高い評価を受けていることが読み取れる。

なお、従来からの傾向ではあるが、学習時間（設問3～5）は、授業評価（設問6～13）や学生の将来につながる授業かどうか（設問14, 15）とほとんど相関していない。表2における回答結果を踏まえると、現在本学では少ない学習時間でも十分に理解できる学習効率の極めて高い講義が開講されている可能性がある。本学では公認会計士試験合格を目指して日々学習している学生が多い。従来、本学では会計大学院での学習時間の少なさを問題視してきたが、資格取得のための学習時間を確保しつつ会計大学院で効率的に高度な会計関連知識を習得できることを意味する現在の傾向は、むしろ学生が本来望む授業内容を提供できてい

ると好意的に判断できるかもしれない。

これらの傾向はおおむね、過去と同様である。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院 WEB サイトを参照されたい (<http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/classeva.html>)。

3.4. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。好意的な意見が多く見られているものの、今年度は多くの教員・学生が慣れない中で急遽オンライン講義への対応に迫られたため、例年以上に改善すべき記述が表れているように見受けられる。後期講義の改善のために、担当教員には重要な意見として耳を傾けて頂ければ幸いである。

4. 結び

2020年度前期における「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果等をふまえると、本会計大学院の授業は総合して良好な評価を得ていると考えられる。急遽オンライン講義への対応に迫られたにもかかわらず、例年と変わらず良好な評価が得られていることは素直に評価すべきであろう。

もともと、本会計大学院が抱える課題も例年と同様であり、学生の学習時間の確保である。予習・復習・宿題にかかる1日あたりの時間は、多くの学生で2時間以下となっている。個々の授業の設計は各教員の裁量に委ねるところであるが、学生の学習時間がきちんと確保されるように継続して工夫することが必要であろう。

ただし、相関分析の結果から、会計大学院講義の学習時間は授業の評価との相関が低いことが判明している。本学では公認会計士試験合格を目指して日々学習している学生が多い。資格取得のための学習時間を確保しつつ、会計大学院で効率的に高度な会計関連知識を習得できることを示唆する現在の傾向は、むしろ学生が本来望む授業内容を提供できている結果と好意的に判断できるかもしれない。

最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位、教員各位に感謝を申し上げます。

付録1：「会計大学院の授業に関するアンケート」（2020年度前期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果を報告書として公表致します。東北大IDが必要となります。

授業担当者には誰がどのような回答したのかについての情報は一切公表せず、集計された結果のみを伝達します。ただし、自由記述については原則として原文のまま担当者に伝達します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(6) 公認会計士コース（2年） (5) 公認会計士コース（1年） (4) 会計リサーチコース (3) ビジネスアカウンティングコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答
2	この授業にどのくらい出席しましたか？（おおよその出席率で回答して下さい。）	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満
3	この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。）	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
4	この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？（宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。）	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
5	この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満
6	この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった
7	この授業の難易度は会計大学院の授業として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である

番号	質問	回答
8	教員のこの授業に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
11	この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
12	この授業のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
13	総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない
14	この授業は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
15	この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し
17	自由記入欄（授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を自由に記入して下さい。）	(自由記述)

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

付録2：アンケート集計結果（2020年度前期）

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合
質問1 回答者属性	(6) 公認会計士コース(2年)	99	33.00%	質問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	(5) 十分	191	63.67%
	(5) 公認会計士コース(1年)	113	37.67%		(4) ほぼ十分	62	20.67%
	(4) 会計リサーチコース	25	8.33%		(3) どちらともいえない	33	11.00%
	(3) 会計リサーチコース	38	12.67%		(2) やや不十分	6	2.00%
	(2) 経済経営学専攻	9	3.00%		(1) 不十分	8	2.67%
	(1) 経済学部	13	4.33%		合計	300	100.00%
	(0) その他	3	1.00%		質問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	(5) 適切	199
合計	300	100.00%	(4) ほぼ適切	69	23.00%		
質問2 この授業にどのくらい出席しましたか。	(5) 90%以上	284	94.67%	(3) どちらともいえない	20	6.67%	
	(4) 89-70%	13	4.33%	(2) やや不適切	9	3.00%	
	(3) 69-50%	0	0.00%	(1) 不適切	3	1.00%	
	(2) 49-20%	1	0.33%	合計	300	100.00%	
	(1) 20%未満	2	0.67%	質問11 この授業の成績評価の方法は適切であると思いますか。	(5) 適切	179	59.67%
合計	300	100.00%	(4) ほぼ適切	80	26.67%		
質問3 この授業の予習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(5) 5時間以上	12	4.00%	(3) どちらともいえない	28	9.33%	
	(4) 4-5時間	3	1.00%	(2) やや不適切	10	3.33%	
	(3) 3-4時間	22	7.33%	(1) 不適切	3	1.00%	
	(2) 2-3時間	51	17.00%	合計	300	100.00%	
	(1) 1-2時間	89	29.67%	質問12 この授業のシラバスは授業を理解する上で役に立ちましたか。	(5) 役に立った	186	62.00%
	(0) 1時間未満	123	41.00%	(4) まあまあ役に立った	65	21.67%	
合計	300	100.00%	(3) どちらともいえない	35	11.67%		
質問4 この授業の復習に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(5) 5時間以上	13	4.33%	(2) あまり役に立たなかった	7	2.33%	
	(4) 4-5時間	9	3.00%	(1) 役に立たなかった	7	2.33%	
	(3) 3-4時間	27	9.00%	合計	300	100.00%	
	(2) 2-3時間	47	15.67%	質問13 総合的に見て、この授業における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	(5) 評価できる	189	63.00%
	(1) 1-2時間	113	37.67%	(4) まあまあ評価できる	72	24.00%	
	(0) 1時間未満	91	30.33%	(3) どちらともいえない	22	7.33%	
合計	300	100.00%	(2) あまり評価できない	12	4.00%		
質問5 この授業の宿題に毎回どのくらいの時間を掛けましたか。	(5) 5時間以上	18	6.00%	(1) 評価できない	5	1.67%	
	(4) 4-5時間	11	3.67%	合計	300	100.00%	
	(3) 3-4時間	27	9.00%	質問14 この授業は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。	(5) 役立つ	172	57.33%
	(2) 2-3時間	53	17.67%	(4) まあまあ役に立つ	62	20.67%	
	(1) 1-2時間	115	38.33%	(3) どちらともいえない	40	13.33%	
	(0) 1時間未満	76	25.33%	(2) あまり役に立たない	13	4.33%	
合計	300	100.00%	(1) 役に立たない	13	4.33%		
質問6 この授業の内容をどの程度理解できたと思いますか。	(5) 理解できた	118	39.33%	合計	300	100.00%	
	(4) ほぼ理解できた	143	47.67%	質問15 この授業は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	(5) 役立つ	194	64.67%
	(3) どちらともいえない	25	8.33%	(4) まあまあ役に立つ	71	23.67%	
	(2) あまり理解できなかった	11	3.67%	(3) どちらともいえない	27	9.00%	
	(1) 理解できなかった	3	1.00%	(2) あまり役に立たない	5	1.67%	
	合計	300	100.00%	(1) 役に立たない	3	1.00%	
質問7 この授業の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	(5) 適切	199	66.33%	合計	300	100.00%	
	(4) ほぼ適切	72	24.00%	質問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士短答式・論文式 or 日商簿記1級	66	22.00%
	(3) どちらともいえない	20	6.67%	(3) 日商簿記2級	155	51.67%	
	(2) やや不適切	5	1.67%	(1) 上記についてなし	79	26.33%	
	(1) 不適切	4	1.33%	合計	300	100.00%	
合計	300	100.00%					
質問8 教員のこの授業に対する準備は十分でしたか。	(5) 十分	201	67.00%				
	(4) ほぼ十分	60	20.00%				
	(3) どちらともいえない	29	9.67%				
	(2) やや不十分	6	2.00%				
	(1) 不十分	4	1.33%				
	合計	300	100.00%				

「注」設問の文言は本来のものと若干異なります。

2020 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	吉永 裕登
委員	青木 雅明
委員	木村 史彦
委員	尾関 規正

会計大学院アンケート実施報告書 2020 年度前期

2020 年 8 月発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会